

「働くこと」を考える

結エデュケーション株式会社 代表取締役 高嶋 謙行

はじめに

これから皆さんは、「職員」として組織の一員になります。学校やアルバイトとは違い、行政の仕事は**一人では完結しません**。上司や先輩、同僚、他部署、関係機関、業者、そして住民の方々。多くの人と関わりながら、協力して進めていく仕事です。

そこにいるのは、年齢も考え方も経験も価値観も異なる人たちです。正直に言えば、「話が合わない」「考え方が違う」と感じる場面も、きっと出てきます。

それでも仕事は前に進めなければなりません。今日は、その前提に立って「働くこと」について、一緒に考えてみたいと思います。

新規採用職員の皆さんへ

これまでの学生生活では、友人関係を自分で選ぶことができました。気の合う人と付き合い、無理をしない距離感を保つこともできたと思います。一方、職場では**人間関係を選ぶことはできません**。上司や先輩の指示に「なるほど」と納得できることもあれば、「何故そうなるのだろう」「正直、腑に落ちない」と感じることもあります。それは決して、皆さんが間違っているからでも、未熟だからでもありません。組織で働く以上、ごく自然に起こることです。

私自身、新卒で研修会社に営業職として入社しました。

ある日、上司にこんな風に声をかけられました。

「今月、予算かなり厳しいね。どうする？」

私は少し考えてから答えました。

「既存のお客さまにはもう一通り提案していますし、今から新規のお客さまを探しても、正直、間に合わないと思います」

言い訳というより、「現実をちゃんと説明したつもり」でした。

すると上司は、意外な返事をしました。

「なるほど。じゃあ、その条件の中で、君はどう動く？」

正直、その瞬間は困りました。

「できない」と思う理由はいくつも浮かぶのに、「それでもどうするか」と聞かれると、言葉に

詰まったのです。今振り返ると、当時の私は「前例がない」「時間がない」「条件が厳しい」そうした理由を並べることで、**判断を先送りしていたのだ**と思います。

結局、特別な打ち手が見つかったわけではありません。できることを一つずつ洗い出し、優先順位をつけ、「やる・やらない」を自分で決めて動いただけです。成果が出たものもあ

れば、正直、空振りに終わったものもありました。それでも、この経験は後になって、意外な形で役に立ちました。条件が厳しいときほど、「できない理由」よりも、「この制約の中で、何を選ぶか」を考える癖が身についたからです。行政の仕事も、よく似ていると思います。前例、ルール、時間、人手。全てが揃う場面は、ほとんどありません。だからこそ大切なのは、

「できないから止まる」ではなく、「この条件で、どう進めるか」を考えること。

完璧な答えでなくて構いません。自分なりに考え、選び、動いた経験は、後から必ず、皆さんの判断力を支えてくれます。

職務経験者の皆さんへ

既に民間企業や他組織で働いた経験をお持ちの皆さんは、「組織で働く難しさ」を身をもって感じてこられたと思います。行政の仕事は、民間とはスピード感や評価の仕組みが違う部分も多く、戸惑いやもどかしさを感じる場面もあるかもしれません。

一方で、行政だからこそ求められるのは、

- ・前例やルールを踏まえた判断
- ・住民全体への公平性
- ・個人ではなく組織としての責任

こうした視点です。これまでの経験は、必ず強みになります。但し同時に、「今までのやり方が正解とは限らない」という前提に立つことも大切です。

行政組織では、立場や役割によって見えている景色が異なります。

その違いを理解し、調整し、つなぐ役割を担える存在は、組織にとって非常に貴重です。

是非、ご自身の経験を「正解の押し付け」ではなく、「選択肢を増やす材料」として活かしてください。

私が大切にしていること

私が今も尊敬している、新卒で入社した研修会社の創設者がいます。

残念ながら私が入社した1年と1日後に病気が原因でこの世を去って長くご一緒することはできませんでしたが、その方から多くを学びました。

それは、言葉よりも行動でした。

- ・受講生や仕事に向き合う真剣さ
- ・日常のすべてを学びの場として捉える姿勢
- ・年齢や立場に関係なく学び続ける謙虚さ
- ・準備や訓練を決して怠らない姿勢

これらは今も、私の判断の軸になっています。

今でも後悔しているのは、「この人がずっと育ててくれるだろう」と、どこかで安心してしまい、一つひとつの関わりをもっと大切にできなかったことです。同期とのつながり、講師との出会い、上司や先輩からの指導。同じ条件で再び巡ってくることはありません。どうか、「今この瞬間の出会い」を大切にしてください。

おわりに

私の好きな言葉に、次のものがあります。

「成功の反対は失敗ではなく、挑戦しないことである」

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、実行なき者に成功なし」

大きな夢である必要はありません。「少し前に進みたい」「昨日より成長したい」

その思いが、行動を生み、経験につながります。今回の研修では、「仕事の基本」と「接遇」をテーマに、行政職員として働く上での土台を1日かけて学びます。この時間が、これからの仕事人生の中で、立ち止まったときに思い出してもらえるものになれば幸いです。

結エデュケーション株式会社 代表取締役 高嶋 謙行(たかしま かねゆき)

全国の官公庁や一部上場企業において、社会人向け研修を担当する共に、大学では就職支援講座を担当。新入社員から幹部・管理職まで、幅広い階層を対象に、ヒューマンスキルやコミュニケーションを中心とした研修を実施。

「知識を知る」だけで終わらせず、「なるほど」「そういうことか」と納得し、「明日からやってみよう」と思えることを大切に研修運営。楽しさ・学び・気づきを大事にしながら、職場で実際に役立つ内容を一緒に考えていく研修を心がけている。

